

## 令和7年度運動部活動指導者研修会アンケートの質問について

令和7年11月25日（火）に開催しました「令和7年度運動部活動指導者研修会」のアンケートでお寄せいただいた質問について、講師の松井様より御回答をいただきましたので、内容を公開いたします。

質問1：大会に出ては一回戦負け、生徒たちがモチベーションを保つことも難しく、その都度、ミーティングをしたり、あらゆるアプローチを試しても浸透していかない。信頼関係が築けていないといってしまうばそれまでですが、そんな環境に身を置かれている教員はどのようなことから取り組んでいったらよいか教えていただきたいです。

ご回答：指導者が何を言うかより、誰が言うかに要因があるかもしれません。

つまり、生徒にとって「この人の話は聞いてみよう」と思える存在であるかどうか大切にかもしれません。

まず取り組むべきは、信頼関係の構築です。

信頼を築くためのポイントとして

- ・「勝たせてくれる先生」ではなく、「自分をわかってくれる先生」になること
- ・練習前後の雑談や声かけなど、日常の中で関心を示すこと
- ・特別な指導よりも「見てもらえている」という安心感を届けること

信頼関係づくりには、コミュニケーションの質を変えることが効果的です。

コミュニケーションの方法として、

致命的な7つの習慣（文句を言う、ガミガミ言う、脅す、批判する、責める、命令する、目先の褒美で釣る）から

身に着けたい7つの習慣（傾聴する、支援する、励ます、尊敬する、信じる、受容する）に切り替えることが信頼への第一歩となると思います。

質問2：現場教職員のクラブ指導への熱血度についての距離の置き方

ご回答：「変えようとする」前に、「聴いてみる」ことから始めるという姿勢ではないかと思います。

先生方も、外部指導員の方も、生徒も、それぞれに「言葉にならない思い」があると思います。

まずはそれを「聴くこと」から始めたらどうでしょうか。その「聴く姿勢」こそが、信頼の第一歩になり、チーム全体の空気を少しずつ温めてくれるのではないかと感じています。